

令和6年度 和白青松園事業報告書

1. 入所人員について

(1) 入所実績

○ 定 員	44 名
○ 延 定 員	16,060 名
○ 入 所 日 数	365 日
○ 延 入 所 児 数	11,219 名
○ 平 均 入 所 児 数	30.7 名
○ 入 所 率	69.9 %

(2) 入所状況

(単位は%：名)

月 区分	4 月 初	4 月 末	5 月 末	6 月 末	7 月 末	8 月 末	9 月 末	10 月 末	11 月 末	12 月 末	1 月 末	2 月 末	3 月 末
幼児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1
小学校	6	6	6	7	7	8	7	7	7	7	7	8	8
中学校	10	10	10	10	10	14	12	14	15	15	16	16	16
高校生	12	12	12	12	12	12	11	11	10	10	10	10	6
その他	1	1	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0
合計	29	29	29	29	29	34	31	33	32	32	34	35	31
入所率	65.9	65.9	65.9	65.9	65.9	77.2	70.4	75.0	72.7	72.7	77.2	79.5	70.4
入所 合計 14 名	2	0	0	1	0	5	0	2	1	0	2	1	0
退所 合計 10 名		0	0	1	0	0	3	0	2	0	0	0	4
一時保護委託 利用者人数 合計 70 名		3	4	2	5	7	5	9	8	7	6	8	6
ショートステイ 利用者人数 合計 256 名		24	40	30	23	22	23	11	15	19	17	22	10

(3) 入退所理由

(単位：名)

入所理由 区 分		虐 待	就 労	疾 病	拘 禁	養 護	その他	計
年度初現在数		2	0	14	1	10	0	27
入 所 数		5	0	0	0	9	0	14
退 所 数	措 置 変 更	1	0	0	0	1	0	2
	家 庭 引 取	0	0	0	0	2	0	2
	就 職 ・ 進 学	2	0	0	0	2	0	4
	そ の 他	0	0	0	0	2	0	2
	計	3	0	0	0	7	0	10
年度末現在数		4	0	14	1	12	0	31

2. 児童の支援について

(1) 基本理念・基本方針

- ①基本理念 ＝ 児童一人ひとりの立場に立って人権を擁護・尊重し、
最善の福祉サービスを提供する事を目指します。
- ②基本方針 ＝ 人権尊重を養護の基本とし、事故の防止、疾病の予防に万全を期し、
明るく健やかに日常生活が送れるように温かい環境作りに努力する。
(家庭に近づけ、健康で、いつも笑顔のある明るい夢のある生活)

③支援目標

- 一人ひとりのこどもを尊重し、最良の支援を計画・実践する。
- 事故の防止、疾病の予防など、細心の注意を払った対応を実践する。
- より家庭に近い雰囲気を目指し、皆が笑顔で暮らせる温かい環境作りを目指す。
- こどもたちの基本的生活習慣の確立とモラルや生活技術の習得を支援する。
- 安心・安全の確保のため、生活環境の整備に従事する。

現在のホーム構成での生活にこどもたちも慣れてきており、余裕のある空間で落ち着いた生活が送れているように見える。これにより、一人ひとりのこどもたちへのケアも充実し、児童間トラブルの減少、協調性を育むことにも繋がっている様子である。

様々な課題を抱えたこどもたちに対応するにあたって、通所及び通院等の業務過多にある状況は変わらないが、こうした対応が個別ニーズの充足に繋がっている面も見られるため、家庭的な雰囲気を維持しつつ、更なるケアの充実やニーズへの対応を強化する必要がある。

(2) 具体的内容

①小学生

- 生活支援 大きなトラブルも無く、共に小学生らしい生活を行うことができた。日常生活のルーティンも概ね身につけており、健やかな成長が見られる。引き続き、放課後デイサービスや地域行事等への参加も実施し、施設内外で多くの経験値を積むことができた。
- 学習支援 帰宅後の宿題を中心に学習支援を行った。各々に合った学習環境を設定し、自分たちのペースで学習に取り組むことができた。
日本ライオンズの助成事業（寺子屋事業）を実施。元教員の方に家庭教師として来園して頂き、小学生への個別の学習支援に取り組んだ。

②中学生

- 生活支援 通常登校可能な児童は、順調な中学校生活を送る様子が見られた。不登校傾向の児童は、生活リズムの立て直しや日中の活動、登校計画などの個別のプログラムを実施した。
- 学習支援 昨年に引き続き、学習ボランティアや個別学習支援など不登校傾向のこどもたち向けの支援を実施した。

③高校生

- 生活支援 普段の生活については、比較的落ち着いて過ごすことができた。特に卒業する高校3年生は、安定した生活を送ることができた。また、他の児童についても、各々の目標に対して自分で取り組むことができるよう、支援を行った。
- 学習支援 必要な学習は各自取り組むことができたが、不登校傾向の高校生については、提出課題や集積状況、取得単位数の確認など、学校と連携し支援を行った。
- 進 路 高校卒業生4名（進学3名・就職1名）
 - ・進学＝精華女子短期大学／福岡リデイング & フライダル専門学校
福岡スクールオブミュージック専門学校
 - ・就職＝トヨタ車体株式会社

(3) その他

①安全・衛生管理

- 防災訓練 火災及び防災時の避難訓練を実施した。また、年2回の通報訓練を実施した。
- 衛生管理 例年通り、児童や職員の定期検診・全職員の腸内検査を実施。また、日頃から手洗い／うがい／手指消毒を推奨し感染症や食中毒の予防に努めると共に、児童・職員の希望者全員にインフルエンザの予防接種を実施し、疾病の予防や体調管理に努めた。

②被虐待児へのケアと権利擁護

- 心理面接の実施及び個別対応など、被虐待児の心のケアに繋がるような支援を実施した。

③自立支援計画及び児童の研修

こどもたちの家庭復帰や自立に向けての支援計画を策定し、計画的な支援を行った。また、自立に向けてのセミナーや権利擁護についての研修を実施し、自立後の生活や施設内の生活が充実したものになるよう支援した。

3. アフターケアについて

自立支援専門相談員を中心に、自立した児童の状況把握（就学・就労状況）や行政手続きの直接支援など、ニーズに合わせた支援を実施した。

卒業生の帰園時や各種問い合わせ時に支援を行った。また、成人式の際には、ささやかではあるがお祝いを実施した。

4. 職員について

(1) 人員について

(単位：名)

職種 区分	園長	事務員	家庭支援専門 相談員	個別対応職員	里親支援専門 相談員	保育士 児童指導員	心理士	看護師	栄養士	調理員等	合計
定数 (4.1)	1	1	3	1	1	26	1	0	1	4	39
4月1日在籍数 含同日採用	1	(1) 1	3	1	1	(2) 28	(4) 1	0	1	(3) 4	(10) 41
異動	年間退職者数 含3月31日 付退職	0	0	0	0	(1) 4	(1) 0	0	0	(2) 1	(4) 5
	年間採用者数 除4月1日 付採用	0	0	0	0	0	0	0	0	(1) 0	(1) 0
3月31日在籍数 除同日退職	1	(1) 1	3	1	1	(1) 24	(3) 1	0	1	(2) 3	(7) 36

※・・・()内は非常勤職員

(2) 充足等について

職員定数（4：1）は39名であるが、実人数は41名でスタートした。

非常勤心理士4名を採用。

(3) 職員研修について

職員のケアワーカーとしての資質向上のため、県内外の研修会やその他諸々の研修会に積極的に参加し、入所児童の処遇向上を図った。

昨年度に引き続き、オンラインでの研修参加も併用した。

5/15~16	社協新任研修	7名	12/11	市協議会職員研修会 2	2名
5/22	保健・衛生研修	1名	1/14	里親支援者研修	1名
6/11~13	九州ブロック研修	4名			
6/17	市協議会新任研修	7名			
7/2~4	日本財団モデル自治体研修	1名			
7/20~21	九州地区里親研修	1名			
10/22~24	全国施設長研修	1名			
10/25	市協議会職員研修 1	2名			
11/19	食物アレルギー研修	1名			
11/19~20	県養協一泊研修	3名			
11/28	法人研修	6名			
11/30~12/1	虐待防止学会	1名			
12/10	施設長研修	1名			
12/10	県養協ケアワーカー研修	3名			

5. 権利擁護委員会（施設内第三者委員会）について

こどもたちの権利擁護、施設生活の課題、また、現在の社会的養護に求められるものについての報告を実施した。

6. 施設整備について

危険個所の把握及び改善に努め、こどもたちへ安全な暮らしを提供した。

○固定資産物品

男子ホーム液晶テレビ1台

○工事／修繕

調理室冷凍庫修繕／危険松剪定作業工事／宿泊棟排水箇所増設工事

防球ネット補修工事

7. その他について

○各種事業

地域小規模児童養護施設 「あすなろホーム」(男児)

地域小規模児童養護施設 「結実ホーム」(女児)

小規模グループケアユニット 4ユニット (男児2／女児2)

一時保護専用ホーム 「クローバー」 (男児6名/女児6名)

親子関係づくりサポート事業「セイフケアプログラム」

自立援助や家族再統合、また、家庭的な生活を目標に、こどもたちの安心・安全な生活の確保に取り組むと共に、地域の家族支援を実施した。

○地域交流

こども会や町内会の行事を中心に、こどもたちの参加や備品及び会場の提供など、協力できる範囲で参加させて頂いた。

○実習生、ボランティアの受け入れ

実習生(大学、短大、その他)

- ・ 受け入れ校…16校、実習日数10日～24日、実習実人員64名

ボランティアの受け入れについて

- ・ ボランティアの受け入れについてはマニュアルを作成し、職員に徹底し意思の統一を図った。

ボランティア(招待)(敬称略)

- ・ 食事/食材…博多食文化の会/焼肉極味や
- ・ 試合観戦…ライジングセファーフ岡/福岡県市町村振興協会(プロ野球)
- ・ レクリエーション…福岡第一ライオンズクラブ(いちご狩り/ボーリング)

ボランティア(訪問)(敬称略)

- ・ 学習指導(九大学生)

8. 苦情解決処理委員会について

○令和6年度は特筆すべき苦情報告は無し。

9. 主な出来事

4/4	辞令交付	10/27	小学校運動会
4/8	入学祝	11/16	ボーリング招待
5/2～5/6	ゴールデンウィーク外泊	12/24	クリスマス会
5/15	法人監査	1/1	年賀の会
5/26	中学校体育祭	1/13	成人の日
6/9	小学生球技大会	1/27	行政指導監査
6/15	スケート招待	2/11	フラワーアレンジメント植物園
7/13～14	きずなキャンプ	3/22	福岡第一ライオンズクラブ いちご狩り
夏休み期間	ホームイベント		
9/8	博多食文化の会食事招待		
9/21	まつり三苦		
10/13	校区体育祭		

10. 寄付物・寄付金について

○ 寄付物 (敬称略)

- | | |
|----------------------------|-------------------------------|
| ・匿名希望 (ふるさと納税) | ・アクティネットワーク社(家電) |
| ・不二精機(株) (クリスマスプレゼント) | ・(株)博多不動産(ケーキ等) |
| ・24時間テレビチャリティー委員会 (図書カード等) | ・パイオニア産業(テレビ) |
| ※芸人やす子氏 マラソン児童養護施設募金による | ・(株)わっはっは極味や(食事) |
| ・九州産業大学(クリスマスプレゼント) | ・(株)ファーストリテイリング サステイナビリティ(衣類) |
| ・日本プライズ(株) (お米) | ・他 74 件 |
| ・(株)環境開発(ギフトカード) | |

全 85 件 計 4,930,000 円

○ 寄付金収入 (敬称略)

- | | | | |
|-------------------|-----------|-----------------------|-------------|
| ・足垣千賀子 | 500,000 円 | ・一般財団法人日本児童養護施設財団 2 件 | 188,000 円 |
| ・(有)港町観光ホテル徳山聡平 | 500,000 円 | ・末永高弘 | 130,524 円 |
| ・山川穂高 | 500,000 円 | ・曾根泰子 | 120,000 円 |
| ・(株)エスネットワーク 酒井一郎 | 300,000 円 | ・福島功 | 120,000 円 |
| ・みんながサンタ実行委員会 | 267,000 円 | ・福岡和白病院 2 件 | 111,000 円 |
| ・井上敏恵 | 200,000 円 | ・(株)正興電機製作所 | 100,000 円 |
| ・九州華僑華人青年会 | 200,000 円 | ・ | |
| ・匿名希望 | 200,000 円 | ・ | |
| ・廣澤和子 | 200,000 円 | ・ | |
| ・西村博之 4 件 | 189,000 円 | ・ | |
| | | ・他 27 件 | 1,340,000 円 |

全 47 件 計 5,165,524 円